

大分工 悲願の初V

高校生ロボット相撲全国大会



高校生ロボット相撲全国大会で大分工
チームが優勝。23日、福島県(同校提供)

2年前に3位、昨年2位

「先輩、仲間のおかげ」

高校生ロボット相撲の全国大会が23日、福島県郡山市のビッグパレットふくしまであり、「自立型の部」で大分工業(安野豊治校長) 未来ロボット工学研究部の内田翔真さんと上田征尚さん(いずれも17歳、電気科2年)のチームが優勝した。同校にとっても初優勝で、2人は「先輩のアドバイスや仲間の支えのおかげ。みんなでつかんだ栄冠」と感謝した。



決勝に臨む内田翔真さん(左)と上田征尚さん

全国工業高校長協会の主催。自立型の部は、事前に組み込んだコンピュータプログラムで自動的に動くロボットを直径1・54メートルの土俵上で戦わせる。全国の予選を勝ち抜いた32チームがトーナメント戦を繰り広げた。内田さんと上田さんは愛機「秀麗I」で、同校の別の1チームとともにエントリーした。

2人は苦しい試合をする中で成長。松永芳史顧問(46)は「相手の動きを予測してプログラムを調整し、間合いの取り方がうまくなっていた」と目を細める。

決勝は長野県の岡谷工業チームと対戦した。序盤に押し込まれ、ひやりとする場面もあったが持ち直し、頂点をつかんだ。

大分工は2年前に3位、昨年は2位と惜しくも優勝を逃している。会場には昨

3万人目になった磨田真奈さん(中央)と松井歩美さん(左)＝23日午後、大分市寿町の県立美術館



年の大会に出場した卒業生も駆け付け声援を送った。「今回の成績は他の部員、生徒たちへの刺激になる」と松永顧問。
2人は社会人や世界のライバルが参戦する来月の全日本ロボット相撲大会2018(東京都)に出場する。「今回は苦戦もあった。反省点を修正し、優勝を目指したい」と意気込んでいる。大会のラジコン型の部には、大分工の2チームと日田林工の1チームも出場した。(指原祐輔)

県立大...色子の...山田

くなって、スケートの季節を眺めながら初滑りを楽し